

第一回 島嶼型低炭素社会システム構築委員会 議事録

【日時】 平成 22 年 9 月 29 日（水） 14:00～17:00

【場所】 宮古島市中央公民館 1 階大ホール

【出席者】 （五十音順・敬称略、(代)は代理出席者）

| | | |
|-----|---------|----------------------------|
| 委員長 | 横山 隆一 | 早稲田大学環境・エネルギー研究科教授 |
| 委員 | 池間 隆守 | 宮古島観光協会専務理事 |
| | 伊沢 忠憲 | 沖縄県高压ガス保安協会宮古支部長 |
| | 大島 良一 | 宮古島東急リゾート管理部マネージャー |
| | 大見謝 伊久雄 | 沖縄製糖株式会社製造部長 |
| | 奥島 憲二 | (株)りゅうせきバイオエタノールプロジェクト推進室長 |
| | 親泊 秀人 | (社)沖縄県建設業協会宮古支部事務局長 |
| | 川満 健勇 | 宮古島漁業協同組合総務課長 |
| (代) | 高木 喜久雄 | (株)東芝電力流通システムスマートグリッド統括推進部 |
| | 島尻 清子 | 宮古島市婦人連合会会長 |
| (代) | 横山 幸子 | 宮古島環境クラブ会長 |
| | 下地 保造 | J Aおきなわ宮古地区本部管理部長 |
| | 砂川 拓也 | 株式会社多良川代表取締役社長 |
| | 砂川 久伸 | 宮古島商工会議所中小企業相談部長 |
| (代) | 平良 かおり | 日本トランスオーシャン航空(株)宮古営業所長 |
| (代) | 中松 亮 | 琉球大学工学部環境建設工学科教授 |
| | 当真 健 | 沖縄電力(株)企画本部企画部次長 |
| (代) | 洲鎌 恵俊 | 宮古タクシー事業協同組合代表理事 |
| | 仲田 利男 | 琉球ジャスコ(株)S C 開発部次長 |
| | 中西 康博 | 東京農業大学国際食料情報学部宮古亜熱帯農場准教授 |
| | 濱元 雅浩 | (社) 宮古青年会議所理事長 |
| | 松堂 守幸 | 沖縄トヨタ自動車(株)宮古支店長 |
| | 宮里 和芳 | 宮古製糖株式会社取締役工務部長 |
| (代) | 新里 仁美 | 宮古森林組合常務理事 |
| | 與那嶺茂雅 | 沖縄振興開発金融公庫宮古支店業務課長 |

【内容】

1. 開会

- 長濱副市長より開会の挨拶。

2. 委託状交付

- 26 名の委員に対して長濱副市長より委嘱状を交付。

3. 委員長選任

- 委員長に横山隆一/早稲田大学教授を選任。

4. 議題

(1)「島嶼型低炭素社会システム構築委員会」の設置について

事務局より設置趣旨（案）を提示。

- 委員より、低炭素社会に限定せず、エコアイランドまで枠を広げるべきとの意見があり、設置趣旨についてエコアイランド宮古島と低炭素との関係性を明確にした内容に修正し、次回委員会で承認を仰ぐこととした。但し、委員会名称については変更しない。

(2)宮古島市の環境政策に係わる動向

事務局より、宮古島市の環境関連取組状況を説明した。

委員より下記のような意見が寄せられ、環境モデル都市の概要が分かり難いとのことから、事務局より環境モデル都市に対する宮古島市の取組み概要を次回委員会までに関係資料を配付することとした。

- CO₂ に引っ張られ過ぎるのは危うい。
- 宮古特有の考え方に立ち、どうすれば脱化石燃料に近い形に持っていけるかを問われている。
- 一般市民の関心が弱いと感じており、もう少しわかりやすい説明が望まれる。
- 環境モデル都市の意味や現状をもっと共有しないと分かりがたい。

(3)宮古島市における CO₂ 排出状況

- 事務局より CO₂ 排出状況を説明。

(4)委員からのプレゼンテーション

- 宮古島東急リゾート、琉球ジャスコ、沖縄振興開発金融公庫より各社環境関連の取組みを説明。

5. 閉会

- 古堅部長より、閉会の挨拶。
- 次回委員会は委員長と調整のうえ、10月末を予定。

以上

第二回 島嶼型低炭素社会システム構築委員会 議事録

【日時】 平成 22 年 10 月 29 日（金） 14:00～17:00

【場所】 下地農村環境改善センター 大ホール

【出席者】 （五十音順・敬称略、(代)は代理出席者）

| | | |
|-----|---------|---|
| 委員長 | 横山 隆一 | 早稲田大学環境・エネルギー研究科教授 |
| 委員 | 池間 隆守 | 宮古島観光協会専務理事 |
| | 伊沢 忠憲 | 沖縄県高圧ガス保安協会宮古支部長 |
| | 大島 良一 | 宮古島東急リゾート管理部マネージャー |
| | 大見謝 伊久雄 | 沖縄製糖株式会社製造部長 |
| | 奥島 憲二 | (株)りゅうせきバイオエタノールプロジェクト推進室長 |
| | 親泊 秀人 | (社)沖縄県建設業協会宮古支部事務局長 |
| (代) | 黒川 浩助 | 東京工業大学特任教授 |
| | 工藤 謹正 | (株)東芝 スマートコミュニティ事業統括部 スマートコミュニティ事業開発部 部長 |
| (代) | 横山 幸子 | 宮古島環境クラブ会長 |
| | 砂川 拓也 | 株式会社多良川代表取締役社長 |
| | 平 一浩 | 日本トランスオーシャン航空(株)宮古営業所長 |
| | 堤 純一郎 | 琉球大学工学部環境建設工学科教授 |
| | 当真 健 | 沖縄電力(株)企画本部企画部次長 |
| (代) | 洲鎌 恵俊 | 宮古タクシー事業協同組合代表理事 |
| | 仲田 利男 | 琉球ジャスコ(株)S C 開発部次長 |
| | 中西 康博 | 東京農業大学国際食料情報学部宮古亜熱帯農場准教授 |
| | 松堂 守幸 | 沖縄トヨタ自動車(株)宮古支店長 |
| | 宮里 和芳 | 宮古製糖株式会社取締役工務部長 |
| | 與那覇 巖 | 宮古森林組合常務理事 |
| | 與那嶺茂雅 | 沖縄振興開発金融公庫宮古支店業務課長 |

【内容】

1. 開会

第一回委員会で事務局預かりとした委員会設置趣旨について、第一回委員会後に説明を行い委員間での認識も高まったとして、当初案通りとすることを承認頂いた。

2. 議題

(1) ヒアリング結果報告

- 『宮古島の将来像についての考え』『環境モデル都市構築にあたっての、宮古

島の課題』『今後の対策として、考えていること』等についてヒアリング結果を共有した。

(2) 委員からのプレゼンテーション

- 東京農大/中西准教授、琉球大/堤教授、宮古島環境クラブ/横山様から、宮古島低炭素社会システム構築の参考となる研究内容や各環境関連の取組みを説明頂いた。

(3) CO2 削減方法の説明

- 次回中間取り纏めの参考として、世界における取組み事例を参考に一般的に考えられるCO2削減対策方法を説明した。

(4) フリーディスカッション

約 10 名の委員から主に宮古島で講じるべき CO2 削減対策について下記する様なコメントを頂いた。

- 太陽光発電導入の際にはメガソーラーのようなものだけでなく、家庭用太陽光発電など分散型太陽光の導入も前向きに検討して欲しい。
- 農業でも宮古島でやっていける小規模農業や野菜工場的なものも重要だと感じており、太陽光発電や水処理を活かし農業と繋げるといった取組みも興味深い。
- 観光客増加と環境負荷軽減の整合性をどう取っていくか疑問を持っていたが、いろんな工夫をすることで特色ある島をつくり、今まで以上に魅力のある島にしたい。
- まずは島民が環境に目を向けるきっかけを作ることが重要で、これまでもそういった取組みが複数有るが、益々拡大させていきたい。
- 電力の安定供給の観点から、再生可能エネルギーの大量導入は慎重に行う必要がある。また、電力需要家サイドの対応を如何に考えるかも重要である。
- 再生可能エネルギー導入も視野に、公共交通機関のあり方を再考して欲しい。
- 島の基幹産業であるサトウキビ産業を支えていくことが重要である。
- 当地の気象の特色をみると、太陽光・熱は夏は強いが、冬は弱い。風力は逆であり相互補完的である。もう一つ地下水は Water Pool としてエネルギーを位置エネルギーに変えるポテンシャルを持っている。この三つを最適化する組み合わせを目指していくことが良いのではと感じる。

5. 閉会

- 次回候補日を通知の上、閉会。

以上

第三回 島嶼型低炭素社会システム構築委員会 議事録

【日時】 平成 22 年 11 月 24 日（金） 14:00～17:00

【場所】 宮古島市中央公民館 1 階大ホール

【出席者】 （五十音順・敬称略、(代)は代理出席者）

| | | |
|-----|---------|---|
| 委員長 | 横山 隆一 | 早稲田大学環境・エネルギー研究科教授 |
| 委員 | 伊沢 忠憲 | 沖縄県高圧ガス保安協会宮古支部長 |
| | 大島 良一 | 宮古島東急リゾート管理部マネージャー |
| | 大見謝 伊久雄 | 沖縄製糖株式会社製造部長 |
| (代) | 古波蔵 春海 | (株)りゅうせきバイオエタノールプロジェクト推進室 |
| (代) | 荻田 能弘 | (株)東芝 スマートコミュニティ事業統括部 スマートコミュニティ事業開発部 主務 |
| | 島尻 清子 | 宮古島市婦人連合会長 |
| | 下地 保造 | J Aおきなわ宮古地区本部管理部長 |
| | 砂川 拓也 | 株式会社多良川代表取締役社長 |
| (代) | 楚南 英二 | 日本トランスオーシャン航空(株)宮古営業所 |
| | 堤 純一郎 | 琉球大学工学部環境建設工学科教授 |
| | 当真 健 | 沖縄電力(株)企画本部企画部次長 |
| | 中西 康博 | 東京農業大学国際食料情報学部宮古亜熱帯農場准教授 |
| | 濱元 雅浩 | (社) 宮古青年会議所理事長 |
| | 松堂 守幸 | 沖縄トヨタ自動車(株)宮古支店長 |
| | 宮里 和芳 | 宮古製糖株式会社取締役工務部長 |
| | 與那覇 巖 | 宮古森林組合常務理事 |
| | 與那嶺茂雅 | 沖縄振興開発金融公庫宮古支店業務課長 |

【内容】

1. 開会

- 委員長より事務局用意の中間取纏めに対する議論を本題とする旨、開催趣旨を説明。

2. 議題

(1) 各委員からのコメント

約 10 名の委員から主に宮古島で講じるべき CO2 削減対策について下記する様なコメントを頂いた。

- 継続性を考えると採算性の取れるモデルを考える必要がある。
- 都市計画全体のバランスを考えた上で、中長期的取組みを行う必要がある。
- 見える化を進めることで、島民の環境に対する関心を高める必要がある。島民の意識が

変わるだけで、環境負荷はかなり軽減され则认为られる。

- 製糖業者として、これまでも排気・排水等に関する環境対策を行ってきたが、今後もやれることを見つけて協力していく。

(2) 委員等のプレゼンテーション

- 三井物産/北野様、沖縄電力/当真様、琉球大学/酒井教授から、宮古島低炭素社会システム構築の参考となる研究内容や各環境関連の取組みを説明頂いた。

(3) 中間取りまとめ

事務局より中間取纏めとして分野毎の『課題の整理』『求められるアクション』『市としての施策』を説明した。委員からは下記の様な意見が寄せられた。

- 宮古島の課題であるゴミ処理を追加頂きたい。
- 計画をしっかりと実現するために、実行主体者や時間軸を加えることが望ましい。
- EV はブームだが、電力供給源も含め宮古島の特性に有った導入方法を、しっかりと検討する必要がある。

5. 閉会

- 次回候補日を通知の上、閉会。

以上

第四回 島嶼型低炭素社会システム構築委員会 議事録

【日時】 平成23年2月4日(金) 14:00~17:00

【場所】 宮古島市中央公民館 1階大ホール

【出席者】 (五十音順・敬称略、(代)は代理出席者)

| | | |
|----------|-------|---|
| 委員長 | 横山 隆一 | 早稲田大学環境・エネルギー研究科教授 |
| 委員 | 池間 隆守 | 宮古島観光協会専務理事 |
| | 伊沢 忠憲 | 沖縄県高圧ガス保安協会宮古支部長 |
| | 大島 良一 | 宮古島東急リゾート管理部マネージャー |
| | 奥島 憲二 | (株)りゅうせきハイエナールプロジェクト推進室室長 |
| | 柏木 孝夫 | 東京工業大学統合研究院教授 |
| (代)荻田 | 能弘 | (株)東芝 スマートコミュニティ事業統括部 スマートコミュニティ事業開発部 主務 |
| | 島尻 清子 | 宮古島市婦人連合会 |
| | 下地 邦輝 | 宮古島環境クラブ会長 |
| | 下地 保造 | J Aおきなわ宮古地区本部管理部長 |
| | 砂川 拓也 | 株式会社多良川代表取締役社長 |
| | 平 一浩 | 日本トランスオーシャン航空(株)宮古営業所長 |
| | 堤 純一郎 | 琉球大学工学部環境建設工学科教授 |
| | 当真 健 | 沖縄電力(株)企画本部企画部次長 |
| (代)洲鎌 | 恵俊 | 宮古タクシー事業協同組合理事 |
| | 仲田 利男 | 琉球ジャスコ(株)S C開発部次長 |
| | 濱元 雅浩 | (社)宮古青年会議所理事長 |
| | 松堂 守幸 | 沖縄トヨタ自動車(株)宮古支店長 |
| | 宮里 和芳 | 宮古製糖株式会社取締役工務部長 |
| | 與那嶺茂雅 | 沖縄振興開発金融公庫宮古支店業務課長 |
| 特別オブザーバー | | |
| | 酒井 一人 | 琉球大学農学部教授 |

【内容】

1. 開会

- 長濱副市長より開会の挨拶。

2. 議題

(1) 委員からのプレゼンテーション

- 東京工業大学/柏木教授、(株)りゅうせき/奥島氏、早稲田大学/横山教授より、宮古島の低炭素社会構築の参考となる話題や取組みについて説明頂いた。

(2) 報告書案の提案

- 事務局より、事前配布した報告書（案）の説明を行った。

(3) フリーディスカッション

活発な意見交換が行われ、下記のような意見が寄せられた。

- 報告書が机上の空論とならない様、島民への伝え方や今後の継続的取組み体制を検討する必要がある。
- CO2 削減量だけでなく、経済波及効果についても記載すべきである。
- 再生可能エネルギー導入量については実情を鑑み、丁寧に記載すべきである。
- サトウキビの利用方法や基幹産業である農業のあり方について宮古島に合う形を考える必要がある。

5. 閉会

- 事務局より今後のスケジュール説明を行った上で、報告書の作成は委員長及び事務局預かりとすることで了承を得た。
- 2月7日にパブリックコメントを出した上で二週間程度意見を受付け、2月末に最終報告書を提出予定。

以上